

■数字で振り返る全日本初勝利

8日に行われた全日本大学アメリカンフットボール選手権1回戦で、北海学園大が福井県立大（北陸地区）に54－49で勝ち、2009年から始まった同選手権で北海道勢の初勝利を飾った。シーソーゲームの末に、試合終了58秒前の劇的な逆転TDでつかんだ勝利を、数字で振り返る。

接戦を制した北海学園大だが、攻撃の獲得距離はパス212ヤード、ラン225ヤードの計437ヤードで8TD。一方、福井県立大はパス205ヤード、ラン309ヤードの計515ヤードで7TD。ランと合計で北海学園大を上回った。ボールの所有時間も北海学園大の23分18秒に対して福井県立大は24分42秒。数字の上からは、北海学園大がわずかに劣勢だったが、どちらに転んでもおかしくなかった試合展開がうかがえる。

個人記録を見ると、北海学園大のランはRB北脇瑠依（1年）が19回のキャリアで135ヤード、2TD。QB成田滉佑（4年）が13回で85ヤード、2TD。LBが本職の樫田裕丈（4年）が3回で10ヤード、1TDだった。一方、福井県立大のランはRB磯本睦（4年）が17回、169ヤード、2TD、WR吉川浩生（4年）が8回、87ヤードで3TD。ランTDは5回ずつだが、福井県立大が2選手に集中したのに対して、北海学園大は3選手がエンドゾーンにボールを持ち込んだ。



北海学園大のパスはWR神林駿太（2年）が5回のキャッチで78ヤード、1TD。WR五十嵐勇星（2年）が5回、74ヤード。WR福原柊太（1年）が2回、52ヤード、2TDで、北海道リーグ同様に若手レシーバー陣が本領を発揮した。一方、福井県立大はWR寺谷翔（2年）が4回、76ヤード、WR松野暖大（4年）が4回、54ヤード、1

TD、RB磯本が2回、68ヤード、1TD。エースRB磯本がパスでも重責を担っていたことがうかがえる。

両チームに大きな開きが出たのがキッキングゲームだった。キックオフでは北海学園大のRB北脇が7回すべてでリターンし、267ヤードをゲインした。最長は第2Qにエンドゾーンの中から走り出して敵陣24ヤードまで持ち込んだ76ヤードのビッグリターン。平均でも38.1ヤードの快走で、7回の内3回を敵陣まで運び、格好のボールポジションを得た。福井県立大のキックオフリターンは7回で計48ヤードだった。また、トライフォアポイントでは、2点コンバージョンを狙った1回を除き、7回すべてをWR/Kの八乙女凌太郎（4年）が確実に決めた。エースレシーバーだった八乙女はリーグ戦で鎖骨を骨折したが、「キックなら大丈夫」と強行出場した。福井県立大はトライのキックを2回外した。接戦では手痛いミスだった。



今春、29人の新入部員を獲得し、選手総数が56人になった北海学園大。高木幸樹HCが若手も積極起用して北海道選手権2連覇を果たした。リーグ戦でも活躍した1、2年生選手がこの日も躍動した。守備ではDL高橋淳大（1年）もQBサックを決めた。登録選手が24人で、LBも務めたRB磯本など攻守兼任も多かった福井県立大に対して、上り調子の若手選手と要所を固める上級生が競うようにプレーした北海学園大。決勝点となった第4Q残り58秒のTDも、上級生ラインが執念で開けた穴に1年生RB北脇が飛び込んだ。今季の「総合力」を象徴するプレーだった。

（広報委員 塚田博）